

砂防ニュース 第30号

発行：新潟県土木部砂防課

発行日：平成21年8月21日

台風・秋雨前線による土砂災害にご注意ください

夏から秋への移行時は、夏の高気圧と大陸からの寒冷な高気圧の間に、いわゆる秋雨前線と呼ばれる停滞前線が生まれ、長雨をもたらします。また、秋雨前線が停滞しているときに台風が接近すると、前線の活動が活発になり、大雨になることがあります。

近年、突然の集中豪雨に十分な警戒が必要です。今年も山口県や九州北部で土砂災害により、甚大な被害が発生しています。テレビやラジオなどの天気予報に注意して、大雨や台風に対する備えを早めに行いましょう。



9月1日は防災の日

「防災の日」は、1923年（大正12年）9月1日に起きた「関東大震災の教訓を忘れない」という意味と、この日は「二百十日（立春から数えて210日め）」に当たる頃であり、暦の上でも古くから台風が多く発生する季節でもあるので、災害に備える心構えを持つようにという意味も含めて、1960年（昭和35年）に制定されました。

「防災の日」には、全国各地で防災訓練や関連イベントが開催されます。この機会に、災害に対する知識や情報を確認し、いざという時のために備えましょう。

1. 危険箇所を確認しましょう

県内には、土砂災害が発生する危険が高いとされる箇所が約1万箇所あり、現在これらの箇所を順次調査し、その結果から「土砂災害（特別）警戒区域」に指定しています。

生活する地域に危険な箇所がないか、日頃から確認しておきましょう。

8月21日現在の県内指定状況

土砂災害警戒区域 1100箇所

土砂災害特別警戒区域 437箇所

指定区域に関する詳しい情報（具体的な危険箇所の地図など）は、最寄りの県地域整備部、市町村役場、県砂防課でご覧になれます。また、「砂防課ホームページ」でも、県内全域の概要を公表しています。

2. 家族で防災会議を開きましょう

避難場所や避難ルート、家族同士の連絡方法、災害時の行動のルールなどを、下記を参考に、普段から家庭で話し合っておきましょう。

- 災害発生の直後にすべきこと 家族同士の連絡方法
- 離れているときの集合場所 家族の避難先と道順確認
- 避難する時に気をつけること
- 非常持出し品リストづくりなど



～ 災害は突然起きる・他人事ではありません～

防災訓練の様子

近年、台風、梅雨前線豪雨、地震などにより全国各地で土砂災害が多発し、多くの尊い人命が失われています。このため土砂災害の危険性をみなさんに知っていただき、いざという時に避難ができるように、平成18年より土砂災害に対する防災避難訓練を実施しています。

今年度については、右側の表に記載の5地区にて避難訓練を実施し、1地区あたり約100人程度の参加をいただきました。

実施日	実施地区
6月7日	魚沼市長島地区
6月14日	見附市新潟地区
6月21日	長岡市上岩井地区
6月21日	妙高市除戸地区、上堀之内地区
7月12日	新潟市秋葉区草水地区

訓練の内容としては、住民避難情報や土砂災害警戒情報等の伝達訓練、災害時要援護者の方も含めた避難訓練、避難所の開設運営に関する訓練、また、避難終了後にはNPO新潟県砂防ボランティア協会の方にもご協力いただき土砂災害に関する講習会も実施しました。防災訓練は、危険箇所の位置・避難所・避難経路等の確認や避難に時間はどの位かかるのか？ 避難勧告等の情報はどのように知らされるのか？など、いざというときの対応の確認ができますので、お住まいの市町村で訓練が実施される際は是非ご参加ください。

梅雨も終わり、これから台風時期に突入します。また、近年局所的な集中豪雨が多くなっています。平時から市町村役場や土砂災害ハザードマップ等で避難所や避難経路を確認いただき、市町村から避難勧告等が発令された際は早めの避難をお願いします。

避難勧告等の発令

土砂災害警戒情報や避難勧告を広報車や防災行政無線を使用し、住民へ伝達しました。



避難所の開設運営

避難所において、保健師による健康診断や自主防災組織による炊き出し訓練



災害時要援護者への支援

災害時要援護者に対して、自主防災組織による搬送訓練等の避難訓練が行われました。



防災意識の向上

避難訓練終了後、避難所にて講習会を実施し、土砂災害の周知・啓発を行いました。また、避難体制等の課題抽出を目的にアンケートを実施しました。



市民活動・現場からのメッセージ

村松町自主防災会（長岡市）

長岡市の村松町自主防災会では、中越大震災の後、町内の避難体制を強化する取り組みを行っています。今回は、村松町自主防災会のみなさんにお話を伺いました。

【中越大震災】

長岡市村松町は、5年前の中越大震災で、全体の約7割の住宅が全壊もしくは半壊し、多くの住民が地元小学校での避難所生活や仮設住宅での生活を余儀なくされました。

地震の直後は、停電し、携帯電話も使えなくなったりして、情報が全く入らない状態でした。また、自主防災会はあったものの、実際の災害時には、あまり機能しませんでした。

【自主防災会の強化】

震災後、自主防災会の体制を見直し、地区ごとに、組長の他に防災委員を付けました。また、震災のとき、住民の安全を確保するには、情報を集めて正しい判断をすることが大切だと分かりました。そこで、たまたま、防災会にアマチュア無線に詳しい人がいたことから、災害時でも使える簡易無線機を使った大規模な情報伝達体制を作ることになりました。

【防災体制】

免許が無い人でも使える簡易無線機を、消防団幹部や無線班および各組長が携帯し、それぞれで交信できるようになっています。各組長は、無線機の他に、緊急告知FMラジオ、拡声器、照明器具を持ち、住民を安全に誘導できるようにしています。また、集落開発センターの無線機を使い、町内に設置された4ヶ所の屋外スピーカーを通して、町内全体に拡声放送できます。これらの機器は、県や市の補助金などを活用して購入しました。この他に、自主防災会の役員がオリジナルの防災マップを作成し、避難ルートをあらかじめ決めていきます。

村松町では、年に1回、これらの機器を実際に使って、避難訓練を実施しています。



集落開発センターにある無線機
ここから町内全体に放送します



停電しても放送できるように
自家発電機もあります



各組長が持っている防災グッズ

村松町自主防災会は、無線機を使った情報伝達体制が評価され、平成19年度防災まちづくり大賞の防災情報部門消防科学総合センター理事長賞を受賞されています。住民が安全に避難するために、自分たちで積極的に考え、行動している姿に大変感銘を受けました。

砂防について学んでみませんか？

平成21年度（社）日本地すべり学会 第48回研究発表会及び現地見学会
開催初日に、県民講演会が行われます。ぜひ、お出かけ下さい。

日時 平成21年8月25日（火）18：00～20：00

場所 「新潟市民プラザホール」 NEXT21ビル 6階

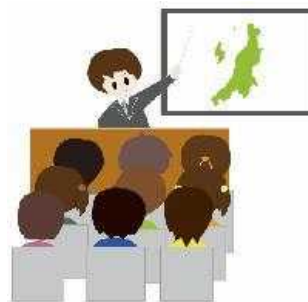
入場料 無料（事前予約不要）

演題：新潟県の地すべり災害と技術開発の歴史（25分）

講師：（独）土木研究所 雪崩・地すべり研究センター所長 石井 靖雄氏

演題：「天地人」と直江兼続（90分）

講師：越後一の宮 居多神社宮司 花ヶ前 盛明氏



火山砂防フォーラム

昨年度、糸魚川市で開催された火山砂防フォーラム。今年度は、鹿児島市で行われます。

【日時】平成21年10月29日（木）、30日（金）13時から 【場所】鹿児島市民文化ホール

詳しくは大会HP等でご確認ください。

今年も大盛況！万内川砂防公園サマーフェスティバル（妙高市）



上手にできるかな？親子で楽しそうな様子

毎年、恒例の夏のイベントとなった万内川砂防公園サマーフェスティバル。今年も、8月8日（土）に開催されました。登録有形文化財に指定されたことを記念して開催されて以来、今年で6回目になります。



全国治水砂防協会 岡本理事長による挨拶

万内川砂防公園は、歴史的には、新潟県の砂防事業発祥の地とされています。当日は、人の手で一つ一つ石を積み上げられて作られた登録有形文化財の砂防えん堤巡りや砂防に関するクイズなど、地域の砂防について学べる催しがいっぱいでした。また、屋台が出たり、昔遊びゲームやニジマスのかみ取りなど、小さな子供たちが楽しめる催しも盛りだくさんで、親子で自然を満喫して思い切り遊んだ楽しい1日となりました。

ご意見・ご感想・情報などをお寄せください。（次号は11月末発行予定）

〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1 新潟県土木部砂防課

TEL（直通）：025-280-5424 FAX：025-285-9724

E-メール：nigt080090@pref.niigata.lg.jp

ホームページ：<http://www.pref.niigata.lg.jp/sabo/index.html>

